

群馬県森林・林業基本計画(2021-2030)素案の概要

1-1 計画策定の趣旨

- (1) 「自立した林業・木材産業」によって森林資源と資金が循環する自立分散型社会の実現に向けた取組を推進する。
- (2) 県民共有の大切な財産であり利根川水系の上流を支える群馬の森林の価値を最大化するため、充実した森林資源を循環利用する持続可能な森林経営を確立する。

1-2 計画の位置付け

- (1) 新・総合計画（ビジョン・基本計画）を、森林・林業分野から推進するものであり、森林・林業施策にかかる最上位計画
- (2) 将来の森林・林業の姿を明確にするとともに、林業・木材産業の自立に向けた基盤を確立するため、今後10年間に実施すべき取組の基本的方針と具体的施策を示すもの

1-3 計画期間

2021年度から2030年度（10年間）

1-4 計画の構成

「基本的事項」、「基本構想」、「基本計画」の3編構成とする。

第1編 基本的事項	第1章 計画の基本的事項
第2編 基本構想	第1章 ぐんまの森林・林業をとりまく情勢の変化
	第2章 ぐんまの森林・林業の姿
	第3章 将来ビジョン2040
	第4章 メインテーマと基本方針
第3編 基本計画	第1章 施策・事業の展開
	第2章 進行管理

2-1 ぐんまの森林・林業をとりまく情勢

- (1) 社会情勢の変化
 - ①自然災害リスクの高まり
 - ②世界の森林面積の減少
 - ③日本は人口減少社会へ
 - ④SDGsの理念普及
 - ⑤進化したデジタル技術の浸透
 - ⑥新型コロナウイルス感染症の感染拡大による人々の価値観・生活様式の変化
- (2) 新たな要素
 - ①新・群馬県総合計画（ビジョン・基本計画）
 - ②2050年に向けた「ぐんま5つのゼロ宣言」
- (3) 森林に対する県民の期待

2-2 ぐんまの森林・林業の姿

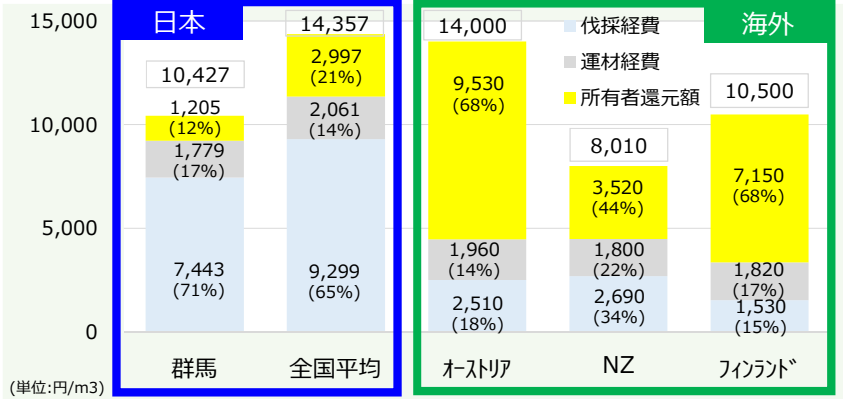
- (1) 群馬県の森林・林業・木材産業・きのこ産業の特性
 - ①県土面積の67%が森林
 - ②首都圏の水源
 - ③急傾斜地が多い。
 - ④大型製材工場が少ない。
 - ⑤集成材・合板工場がない。
 - ⑥きのこ生産量は全国上位
- (2) これまでの施策の総括
 - ①県産材製材品生産量が減少
 - ②林業産出額（木材）は横ばい
 - ③素材生産量は増加
- (3) 現状と課題の整理
 - ①高コスト体質
 - ②産業として自立する仕組みが欠如し、補助金に依存する構造
 - ③現状維持では産業としてじり貧

これまでの施策の総括

素材生産経費

- ① 群馬県と全国平均とでは素材生産コストに4,000円/m³程の差があるが、構成割合に大きな差はない。
- ② 日本と海外とでは、構成割合が大きく異なる。
- ③ 日本の伐採コストは海外と比べて非常に高い。

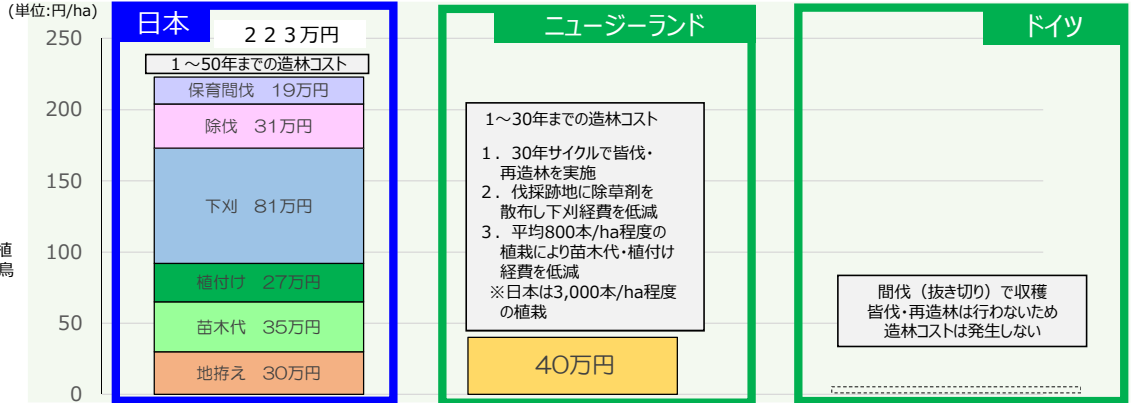
※出典：「素材生産事例調」(林野庁企画課)のスギ間伐の5か年平均値(平成26年次から30年次)及び「わが国林業・木材産業の今後の可能性」(株式会社日本政策投資銀行)から



保育経費

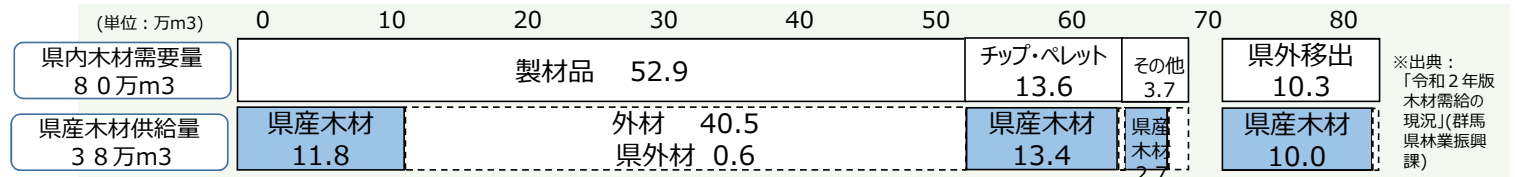
日本の造林コストは海外に比べ非常に高い。
(ニュージーランドの5倍強)

※出典 日本：林野庁資料を参考に作成(スギ3,000本/ha植栽、下刈5回、除伐2回、保育間伐1回、野生鳥獣対策費は含まない)、補助金は補助率68%で算出すると152万円
ニュージーランド：持続可能な森林経営研究会第7回セミナー(2009年1月)資料。1N\$ = 89円で計算



県産木材の需要

- ① 製材品の77%は外材
- ② 県産木材の26%が県外流出



近隣県との比較

- ① 素材生産量、林業産出額、国産材製品出荷量は栃木・茨城県より少ない。
- ② 群馬県は公的管理(治山事業等)による公益的機能重視の施策を実施

表-1 素材生産量 (チップ用を含む)

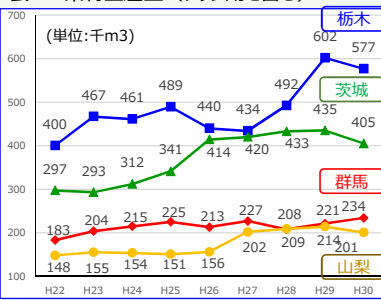


表-2 林業産出額 (素材) (チップ用を除く)

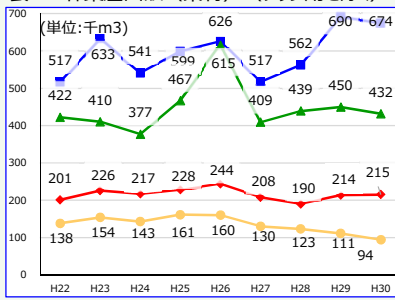
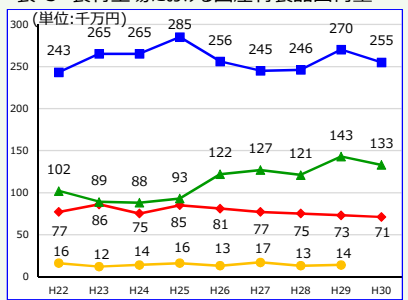


表-3 製材工場における国産材製品出荷量



※出典：表-1及び表-2は農林水産省統計調査「平成30年木材需給報告書」、表-3は群馬県林業振興課業務資料

2-3 将来ビジョン2040

県産木材による自立分散型社会の実現

将来ビジョン実現に向けた方向性

- 方向性1 産業構造改革による高コスト体質からの脱却
- 方向性2 充実した森林資源の循環利用により林業産出額を増やし、山林所得を増加
- 方向性3 林業経営を通じた森林整備により、森林の公益的機能を維持・増進
- 方向性4 森林・林業予算を大胆に見直し、治山・林道事業から林業・木材産業の振興へシフト

現 状

地理的条件を考慮しない素材生産

高コスト体質

素材生産量に対し過小な県内製材需要

県産木材が県外へ流出
(県産木材生産量の26%)
※令和元年度

大型製材・集成材等工場【県外】

中小製材工場・木工所等【県内】

不安定な供給体制・品質が課題

製品出荷量は減少傾向
(平成22年度から平成30年度まで9%減少)

大手ハウスメーカー・建設業者

中小工務店【県内】

改革の方向性

～供給重視から需要重視の産業構造へ転換～

森林のゾーニング導入

地理的条件に応じた素材生産

低コスト林業システムの導入

目指すべき姿

短伐期林業
(緩傾斜地・皆伐再造林)

森林所有者・林業事業者

長伐期林業
(急傾斜地・非皆伐)

森林所有者・林業事業者

- ◆大手ハウスメーカーとの連携による販路確保
- ◆集成材工場等の誘致による木材供給

県内誘致 大型製材・集成材等工場

販路拡大 大手ハウスメーカー・建設業者

需要情報に基づく素材生産・木材加工

- ◆高付加価値木製品の加工体制強化
- ◆販路拡大による多様な木製品の供給

加工体制強化 中小製材工場・木工所等【県内】

販路拡大 中小工務店・家具メーカー等

- ◆低コスト林業システムの導入・木材加工体制の強化により、産業構造を転換
- ◆県内での森林資源と資金の循環により、木材産業産出額・林業産出額を増加
- ◆森林の公益的機能は、林業経営による森林整備により向上。公的管理による関与を低減

林業・木材産業の自立

基本方針 1

林業の競争力強化

基本方針 2

森林の新たな価値の創出

基本方針 3

森林の強靱化

3 - 1 施策・事業の展開

I 林業の競争力強化

【1】木材流通・加工の 基盤強化と需要拡大

- ①木材流通・加工構造の改革
- ②新たな販路・需要の創出

【2】林業システムの改革

- ①低コスト林業システムの導入
- ②デジタル化・自動化の推進

【3】きのこ産業の再生

- ①安全・安心なきのこの生産力強化
- ②新たな需要創出と収益力向上

II 森林の新たな価値の創出

【1】新たな森林資源利用

- ①地域内資源・エネルギー自給
- ②新素材・未利用資源活用

【2】「森林ビジネス」の創出

- ①「森林ビジネス」の創出
- ②森林空間利用拠点の整備・強化
- ③県民参加推進

III 森林の強靱化

【1】防災・減災

- ①山地災害の防止、被害軽減
- ②森林の健全化促進と適正な保全

【2】災害への適応力向上

- ①新たな森林管理手法の構築
- ②インフラ施設周辺森林の整備
- ③県民防災意識向上

基本方針	主な指標	現状値	目標値
I 林業の競争力強化	木材産業産出額 (千万円/年)	8,261	検討中
	県内木材総需要量における県産木材率 (%)	47	
	製材工場における国産材製品出荷量	71	
	林業就業人口 1人当たりの林業産出額 (千万円/人)	-	
	山元立木価格 [スギ] (円/m ³)	2,596	
	素材生産量 (千m ³ /年)	379	
	林業従事者(現場技能者)の平均年収 (万円/年)	-	
	林業試験指導機関人員率 (%)	-	
	きのこ生産産出額 (千万円/年)	514	
II 森林の新たな価値の創出	地域における木質バイオマスエネルギー活用に取り組む市町村数	4	検討中
	「森林ビジネス」取組地域数	-	
	森林環境教育参加者数 (人/年)	15,800	
III 森林の強靱化	民有林治山事業施工面積 (ha)	556	検討中
	民有人工林の間伐等森林整備面積 (ha/年)	2,286	
	民有人工林の整備率 (%)	41	

※実績欄の青色文字は令和元年度暫定値、赤色文字は平成30年度実績値

主な取組

基本方針1 林業の競争力強化

【1】木材流通・加工の基盤強化と需要拡大

(1) 木材流通・加工構造の改革（製材加工体制の再編）

- ① 大型製材工場等の誘致（大手ハウスメーカーと連携・トップセールス）
- ② 県内中小製材工場の特徴を活かした高付加価値製品の加工体制の強化



(2) 新たな販路・需要の創出

- ① 大手ハウスメーカー等への木材供給（サプライチェーンマネジメント(SCM)）
- ② 非住宅建築物における県産木材利用の推進
- ③ 内装の木質化の推進
- ④ 「木育」による県産木材・木製品の普及啓発



基本方針1 林業の競争力強化

【2】林業システムの改革

(1) 低コスト林業システムの導入

- ① 短伐期林業（高効率化）
- ② 長伐期林業（高付加価値化）

波及効果 >>
植栽は県内産の花粉症対策品
種で実施し花粉発生を抑制



少花粉スギ苗木

(2) デジタル化・自動化の推進

- ① 森林資源情報の共有・高度利用システムの構築
- ② 林業機械の自動化・高機能化



基本方針2 森林の新たな価値の創出

【2】「森林ビジネス」の創出

(1) 「森林ビジネス」の創出

- ① 異業種・都市住民とのつながりの構築
- ② 森林の新たな価値の発掘と新たなビジネスの創出
- ③ 多様な主体の参画によるビジネスの実現

杉の葉のアロマ製品



(2) 森林空間利用拠点の整備・強化

- ① 地域拠点の機能の整理・分析による拠点機能の整備・強化
- ② 地域内連携、異業種・他地域との連携
- ③ 森林公園等のモデル的拠点施設における森林サービス産業の実現

